

2010年3月期（平成22年3月期）第2四半期決算発表に関するQ&A

2009年10月29日に新聞発表を行いました「2010年3月期（平成22年3月期）第2四半期決算短信」につきまして、マスコミ各位他よりご質問いただいた点などを、下記の通りお届けいたします。

1. 2010年3月期（平成22年3月期）第2四半期の連結業績について

Q 1. 特別利益の事業整理損失引当金戻入額の内容を教えてください。

A 1. 塩ビリサイクル事業に関して、2008年3月期に損失処理した事業整理損失引当金について、事業撤退に関する今後のスケジュール及び収入／支出が概ね確定したため、必要性がなくなった引当金を戻し入れ、特別利益として計上するものです。

Q 2. 塩ビリサイクル事業に関して、今後、追加で損失が発生する可能性は？

A 2. 予想分も含め想定されるものは、2010年3月期第2四半期現在、事業整理損失引当金として計上しており、今後、追加費用は発生いたしません。

2. 事業展開について

Q 1. 政権交代で公共事業が削減されているが、影響はないか？

A 1. 当社の事業は、下水処理や都市ごみ処理など市民生活に関わる分野であるため、特に大きな影響はないと考えておりますが、今後の状況をウォッチしていきます。

Q 2. このほど鳩山首相が2020年までにCO₂を1990年比で25%削減するとの国際公約を打ち出した。神鋼環境ソリューションにとってビジネスチャンスとしてどう捉え、また、これからどのような展望を描いているのか？

A 2. 水処理や都市ごみ処理など、長年に亘って当社が培ってきた技術、創エネ技術の代表としてのバイオ天然ガス化設備をはじめとする製品・技術・サービスを更にブラッシュアップしていくとともに、新製品・新技術の開発や海外からの技術導入などにより、新たな提案や取り組みにも注力していきたいと考えています。

“CO₂・25%削減目標の達成”という時代の要請に、当社の技術がお役に立てることと信じております。

Q 3. 海外展開をどのように考えているのか？

A 3. 海外売上高については、現状、連結売上高の 10%に満たない状況です。本年 4 月にベトナム事務所を開設し、現地工業団地内の排水処理設備を受注し、更なる案件受注を目指し営業活動を推進しております。

また、ヨーロッパでは展示会への出展などによる PR を強化し、都市ごみ焼却技術活用による“Waste to Energy（廃棄物のエネルギー化）”の分野にも取り組んでおります。

このように、海外への取り組みの強化を継続していきます。

Q 4. バイオ天然ガス関係の事業は、今後どう展開していくのか？

A 4. バイオ天然ガス化設備は CO₂ 削減に寄与し、循環型社会の形成という目標の一助となる設備であると認識しております。当社が設備を納入した神戸市殿の東灘処理場では、2008 年 4 月より「こうべバイオガス」を自動車燃料として市バスや民間のトラックなどに販売しております。

また、日本初のバイオガス都市ガス導管注入実証事業に神戸市殿、大阪ガス株式会社殿と共同で取り組むことを決定し、今年度中の設備整備、来年度からの事業開始を予定しております。これまでの実績とノウハウをベースに技術のブラッシュアップを行い、更なる普及促進と拡販に向けて積極的に取り組んでまいります。

以上